

ホシシャク

春にヤチダモやイボタの葉を食べるシャクトリムシ（幼虫）。最大長約30mm。集団で糸を張り巡らす。

本州ではイボタなどの害虫として知られる。北海道ではヤチダモ人工林での多発が観察されている。



1. 中齢幼虫，体長9mm，1992/6/15.



2. 終齢幼虫，体長24mm，1992/6/25.



3. 蛹，体長15mm，1992/7/10.



4. 雌成虫，体長15mm.

1～4は同一個体。芦別市，ヤチダモ造林地で大発生した個体群から。

【学名】 *Naxa seriaria*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) ， シャクガ科 (Geometridae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州；シベリア南東部，朝鮮半島，中国.

【特徴】

幼虫は終齢で体長約30mm。体は黒色，黄褐色の縦線が背面中央に一对，各側面の気門のところに1本ある。体毛は白く長い。

老齢幼虫は黄褐色の細線が腹部後半の背面に網目状に現われ，また，各関節後方を横に走る。類似した幼虫はない。

【生態】

イボタ，ヤチダモ，ハシドイなどモクセイ科樹木に寄生する。

年1世代。成虫は6月中旬～7月中旬に羽化，昼飛性，越冬態は中齢幼虫，幼虫は集団で葉間に糸を張って食害，この糸の中で越冬および蛹化し，産卵も糸上に行なわれるという。北海道では6月下旬に蛹化，7月中旬に成虫が羽化し，幼虫は林床の落葉

層に降りて越冬するらしい。

【被害と防除】

本州などではイボタ、ネズミモチの害虫として知られる。北海道では空知芦別市のヤチダモ人工林で1991～92年に多発した。この際、ハシドイの食害も観察された。食害された木の著しい衰弱や枯死は観察されていない。

駆除には越冬中の幼虫集団の除去がよいといわれている。

【文献】

1969. 一色周知監修. 原色日本蛾類幼虫図鑑 (下) : 1-237, pls 1-64. 保育社, 大阪.

1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫 (下), 害虫とその防除 : 1-290. 日本林業技術協会, 東京.

1979. 中島秀雄, 佐藤力夫. 日本産シャクガ科食草目録. II カバシャク亜科・ホシシャク亜科・アオシャク亜科. 蛾類通信, 100 : 663-680.

1982. 井上寛ほか. 日本産蛾類大図鑑. Vol. 1: 1-968; Vol. 2: 1-556, pls 1-392. 講談社, 東京.

1987. 杉敏郎, 編集. 日本産蛾類生態図鑑 : 1-453, pls 1-120. 講談社, 東京.

*1992. 福山研二, 前藤薫, 東浦康友, 原秀穂. 平成3年度に北海道に発生した森林昆虫. 北方林業44 : 271-274. (ウダイカンバでの被害記録)

*1993. 福山研二, 前藤薫, 東浦康友, 原秀穂. 平成4年度に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業, 45: 291-294.

1993. 吉田信行ほか. ホシシャクの生態とくん煙による防除試験. 平成4年度林業技術研究発表大会論文集: 152-153. 北海道林業改良普及協会, 札幌.

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ホシシャク shakuga/hosishak/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1994/5/1.

1yochu1.jpg, 1yochu2.jpg, 1sanagi.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～4」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992.